



水道橋畔発

第40号 令和6年12月

Contents

〔病院長より〕新型コロナウイルス感染症の 5類感染症移行後の対応について

水道橋病院・病院長 山下 秀一郎

保存科（歯内療法学講座）の紹介

保存科（歯周病学講座）の紹介

保存科（保存修復学講座）の紹介

紙カルテから電子カルテシステムへ

1p

2p

3p

4p

6p



〔病院長より〕新型コロナウイルス感染症の 5類感染症移行後の対応について

水道橋病院・病院長 山下 秀一郎

日頃から水道橋病院の医療連携にご協力頂き感謝申し上げます。

私が水道橋病院病院長を拝命したのは令和4年6月1日ですが、当時はまだ新型コロナウイルス感染症の位置づけは、「新型インフルエンザ等感染症：いわゆる2類相当」として扱われていました。その後、ご存じのように令和5年5月8日から「5類感染症」に移行しました。水道橋病院では、移行後もこれまでの標準予防策（スタンダードプリコーション）の方針を変えることなく適用しております。下の写真は補綴科の診療風景を示しますが、外科処置に限らず一般診療においてもガウン、マスク、ゴーグル等の着用を指示しております。また、感染予防対策チーム委員会を中心とした活動のもと、具体的な取り組みとして、（1）週1回の院内ラウンドを通じ、各部署における感染予防対策実施状況の把握、評価、指導及び監視、（2）年2回の感染予防・対策に関する講習会実施とマニュアルの改訂、（3）委員会決定事項の各部署への通達と普及、（4）院内感染症発生状況の把握および感染予防対策



補綴科診療室における診療風景

委員会への報告、などを実施しております。連携の先生方におかれましては、患者様をご紹介頂く際に、感染対策についてご安心頂けるようお伝え頂ければ幸いです。

さて、水道橋病院の概況ですが、歯科診療台数が136台、病床数が20床と近隣の歯科大学に比較すると比較的コンパクトな構成となっています。その中で、外来患者数は、一日平均約750名であり、非常に多くの患者様に来院頂いております。新型コロナウイルス感染症が加速度的に蔓延した令和2年5月には、一日の患者数が平均約50名と一旦大きく減少しましたが、翌年には現在と同程度の患者数まで回復することができました。これは、ひとえに連携の先生方からのご支持があったからと感謝申し上げます。その一方で、皆様からのご意見として多いのが、「電話がつながらない」、「アポイントがすぐにとれない」がトップ2となっています。これらについては、コールセンターの開設や効率的なチェアコントロールによって随時改善を進めているところであります。

本院の理念である「思いやりの心による医療」は全職員に確実に浸透しております。一人一人の患者様としっかり向き合い、寄り添い、信頼に足る医療をご提供できるよう、病院全体が一丸となって尽力してまいります。今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



保存科（歯内療法学講座）の紹介

歯内療法学講座 助教 田宮 資巳

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
本号では保存科・歯内療法分野の特徴についてご紹介致します。

現在、歯内療法分野では保存科の中でも先生方から多くの紹介をいただいております。紹介いただいた患者さまへの診療に励んでおります。

また、紹介状持参の患者さまへの対応は、常勤歯科医師 13 名で行っております。症例の難易度に応じて担当医を決めさせていただくことがございます。

歯内療法分野の特徴的な治療法は、必要に応じて歯科用コーンビーム CT で検査・診断を行い、手術用顕微鏡下で精密な治療を行うことです。

現在、合計 10 台の手術用顕微鏡を歯内療法で使用しております。

また、新型 Ni-Ti ロータリーファイル、バイオセラミック系材料を始めとした、最新の根管治療用器具・薬剤も取り揃えております。

右下写真のように専門性の高い症例にも対応が可能です。患者様のご要望に応じて自費診療にも対応しております。

また、一定の治療水準と治療成果をご提供するために、十分な治療時間を確保して治療を行わせていただいております。そのため、お待ちいただいている患者さまが多く、現状で担当医決定まで **3 か月～ 6 か月** お待たせすることがございますことをご理解いただけると幸いです。

より効率的な診療を行い、今後はなるべく多くの患者さまへの対応可能な体制を整備したいと考えております。

ご迷惑をおかけすることもございますが、ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【対象となる患者様】

難治性の根尖性歯周炎、歯髄疾患を有する患者様

【ご紹介方法】

紹介状をご持参いただき、予診の時間帯にいらしてください。（他講座同様）

【待機期間】

3～6か月程度



Microscope OPMI pico



Leica M320 F12



Ni-Ti
ロータリーファイル

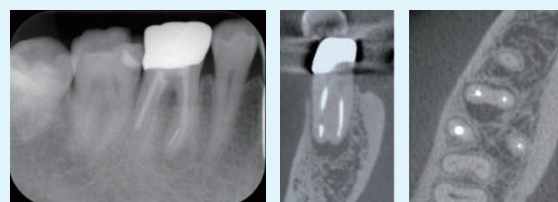


垂直加圧用
器材

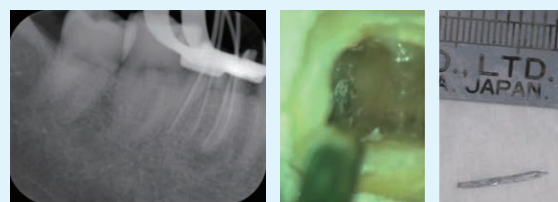


バイオセラミック系
材料

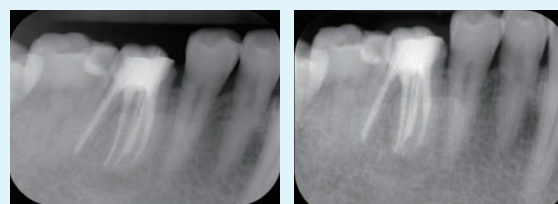
下顎右側第一大臼歯の根管内異物除去と根管治療



術 前
MB 根管にファイル残留



術 中
手術用顕微鏡下で除去



術 後
(左：直後、右：3ヶ月後)



保存科（歯周病学講座）の紹介

歯周病学講座 講師 今村 健太郎

現在、日本歯周病学会歯周病専門医・指導医 1 名、専門医 2 名、認定医 7 名および認定歯科衛生士 2 名が在籍しており、歯科医師と歯科衛生士の二人三脚で歯周病の予防・治療を行っています。患者さまの健康と QOL（生活の質）の維持・向上を目指しております。

ご紹介患者さまに関しては、5 年目以上の歯科医師が担当しておりますが、症例の難易度などを考慮し、指導医と共に専門医・認定医の取得を目指す若手医局員が担当することもございます。2019 年度からの歯周病関連の紹介の推移を図 1 に示します。年間で約 150 名の患者さまをご紹介いただいております。ご紹介くださいました先生方に、この場をおかりして御礼申し上げます。

【診療の流れ】

- ①予診：紹介状持参の患者さまも予診（9：00～10：30）を受診、担当医を決めさせていただきます。
- ②デンタルエックス線撮影：歯周病の診断に重要な 10 枚法、14 枚法などの撮影が必要な場合、予診から担当医の初診までの間に、撮影していただくことがあります。現在、完全予約制となっております。
- ③担当医の初診：歯周組織検査、エックス線検査、咬合診査などに基づき、診断を行い、治療計画を立案します。
- ④歯周治療の開始：患者さまの同意のもと、治療計画に基づき、治療を開始します。

【専門治療】

プラークコントロールの確立と炎症の軽減を目的とした歯周基本治療が治療の柱となります。その後、必要に応じて歯周外科治療を行う場合があります。世界に先駆けて日本で導入された塩基性線維芽細胞増殖因子 (FGF-2) 製剤 (リグロス®) による再生療法は、水道橋病院において日常的に実施しております (図 2)。症例によっては、骨補填材との併用療法も行っております。

【対象となる患者様】

中等度慢性歯周炎以上の患者様、軟組織の問題（歯肉退縮、ブラックトライアングル等）

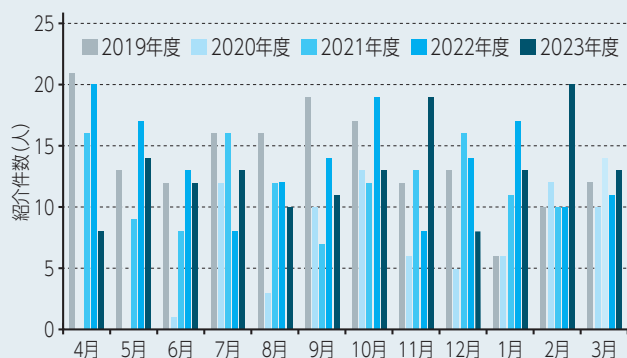
【ご紹介方法】

紹介状をご持参いただき、予診の時間帯にいらしてください。

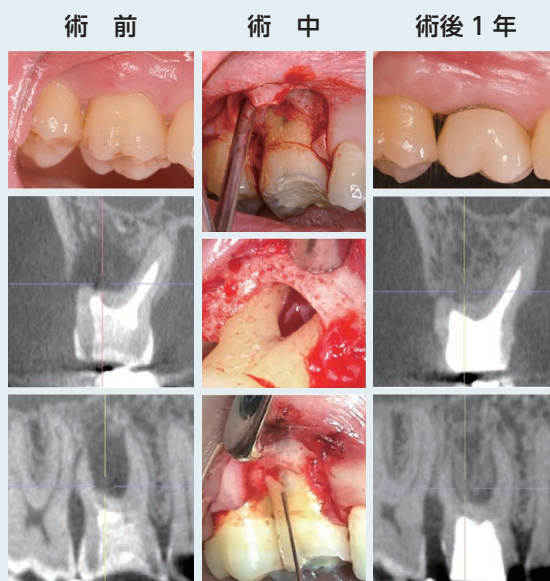
【待機期間】

1～2か月程度

【図1】紹介件数の推移：歯周病関連(2019年度～2023年度)



【図2】リグロス®を使用した歯周組織再生療法



また、軟組織に問題を抱えた患者さまも多くご紹介いただき、歯周形成手術により、機能・審美の改善を図っております (図 3)。

【研究活動】

よりよい治療を提供すべく、歯周病関連の基礎・臨床研究に積極的に取り組んでいます。

【図3】結合組織移植術を使用した根面被覆





保存科（保存修復学講座）の紹介

保存修復学講座 講師 春山 亜貴子

平素より保存科に多くの患者様をご紹介下さり、誠にありがとうございます。保存修復分野の歯科医師は日本歯科保存学会、日本接着歯学会に所属しており、ご紹介いただきました患者様は日本歯科保存学会指導医・専門医・認定医等取得した常勤歯科医師 6 名が担当しております。

【専門治療】

保存修復分野では患者個人の齲蝕リスクを把握したうえでの MID に基づいた治療や審美修復（CAD/CAM 修復・ダイレクトベニア修復・漂白を含む）を行っております。また、歯科恐怖症や嘔吐反射の既往がある患者様に対しては、歯科麻酔科と連携した治療も行っております。

1) 患者さまの口腔管理

当科では唾液での齲蝕リスク検査（SMT：図1）を行っております（自費）。患者さまの口腔内への意識向上と歯科医師の齲蝕リスクの把握のためのツールとして実施しています。

【図1】唾液検査



2) 齲蝕診断器の活用

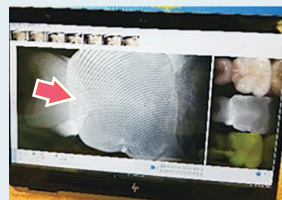
齲蝕や歯の亀裂などの精査に光学式齲蝕検出装置（ダイアグノデント ペン：図2）や歯科診断用口腔内カメラ（ダイアグノカム Vision Full HD：図3）を用いています。エックス線を使用せず、視覚的に説明可能であるため、診断の一補助として用いています。



【図2】ダイアグノデントペン



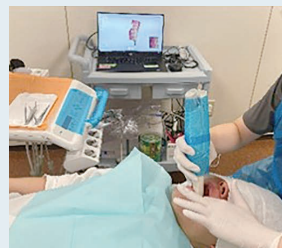
→ コンポジットレジン修復



【図3】ダイアグノカム

3) 審美修復（CAD/CAM 修復）

当科の審美修復では IOS（TRIOS）を活用しています（図4）。ラバーダムを用いて装着するなど、接着材料の性能を最大限に発揮できるように努めています。



【図4】CAD/CAM修復

保存修復分野に関するお困りの症例につきまして、ご相談いただけますようお願い申し上げます。なお、患者様に安心して治療を受けていただけるよう、ご紹介いただいてから治療開始まで長期間お待ちしてしまうことについて、ご了承頂きたく存じます。

【対象となる患者様】

- ・ 齲蝕症 2 度程度（深在性齲蝕を含む）までの治療
- ・ 審美修復希望（ダイレクトベニア修復・漂白等）

【ご紹介方法】

紹介状を作成いただき、予診時間内に来院

【待機期間】

1～2 か月

なお、静脈内鎮静法など歯科麻酔科と連携した歯科治療が必要な場合は担当医との治療計画確定後、治療初回には 3 か月程度の期間を頂いております。

病院長 副病院長 副病院長 副病院長	山下秀一郎 鳥山佳則 新谷誠康 笠原弘一 平田創一郎	令和6年11月1日現在	
		東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)	

診療科名	職 名	氏 名		講座名		
保存科	客員教授	古澤	成博之	歯内療法学		
	客員准教授	河野	誠司			
	准教授	山田	雅司			
	講師	佐古	亮己			
	助教	田宮	資			
		鈴木	里穂			
		中里	晴樹			
		若澤	弘花子			
		北島	彩玲			
	レジデント	高橋	誉彰之			
		古井	瀬智之			
		谷 洸	希			
		江川	加奈枝			
		高原	千			
	教授	齋藤	淳	歯周病学		
	医局長・講師	今村	健太郎			
	助教	山下	慶子			
		北村	友里恵			
		久永	理央			
	レジデント	齋藤	佳美			
安藤		麻友里				
原田		怜音				
小久保		楓香				
村松		敬				
部長・教授	村松	敬	保存修復学			
准教授	杉戸	博記				
講師	春山	亜貴子				
助教	春半	場秀典				
	石塚	久子志				
補綴科	教授	中野	岳志	老年歯科補綴学		
	教授	上野	田貴之			
	准教授	竜正	大智史			
	講師	高野	太智			
	助教	太田	緑壮			
		齋藤	晃裕			
		石中	澤和真			
		小林	高史紀			
		山本	吉みのり			
	レジデント	竹内	綾夏			
		堀	根秀志			
		関根	秀			
		教授	佐藤	亨		
		名誉教授	野本	俊太郎		
	補綴科	准教授	四ツ谷	護徳	クラウンブリッジ補綴学	
		講師	酒井	貴		
		助教	露木	悠太		
			黒田	祥穂		
			平野	瑞佳		
			岡野	文香		
河津			里香			
レジデント		佐藤	真紀乃			
		荒井	春宏			
		大能	秀一郎			
	山下	彰規				
	田坂	宏巳				
口腔外科	医局長・准教授	堀田	大平	パーシャルデンチャー補綴学		
	客員准教授	加藤	芳実			
	講師	岡野	日奈			
	助教	小林	裕太			
		北村	旭			
		伴野	圭太			
		中村	領杜			
		加藤	雄太			
	口腔外科	教授	木村		遼太	口腔顎顔面外科学
		教授	渡邊		章彦	
客員教授		柴原	孝多			
講師		高木	多加志			
		高野	正行			
		吉田	秀児			
		加藤	宏高			
		有泉	央			
助教		林 幸	樹			
		小坂	悠知子			
		坂原	身太郎			
		村松	賢瑞			
		井川	葵			
口腔外科		部長・教授	片倉	朗	口腔病態外科学	
		病院教授	笠原	清弘		
		医局長・准教授	菅原	圭亮		
		講師	(西山)	明宏		
		助教	星野	照秀		
			小山	侑		
			小谷地	雅秀		
	二階堂		純彦			
	加藤		禎彬			
	レジデント	杉浦	慧あずさ			
丸島		亮				
岩嶋		孝太郎				
立澤		明				
齊藤						

診療科名	職名	氏名	講座名
歯科麻酔科	部長・准教授	小鹿恭太郎	歯科麻酔学
	講師	半田俊之	
	医局長・講師	古田香織	
	助教	齋藤菜月	
	レジデント	飯村真理子	
矯正歯科	レジデント	津谷瑠理	歯科矯正学
	部長・教授	西井康二	
	客員教授	末石研	
	准教授	石井武展	
	講師	片田英憲	
	医局長・講師	立木千恵	
	助教	有泉大	
	レジデント	西村達郎	
		戸村拓真	
		林優希	
小児歯科	部長・教授	大澤雄一郎	小児歯科学
	講師	太田健太郎	
	医局長・講師	都丸宏実	
	助教	中野瑞貴	
	レジデント	勝田真央	
口腔インプラント科	部長・教授	新井田張	口腔インプラント学
	講師	星沙弥佳	
	医局長・講師	新谷誠康	
	助教	辻野啓一郎	
	レジデント	櫻井敦朗	
口腔健康科学	部長・教授	本間宏実	口腔健康科学
	講師	棚瀬稔貴	
	助教	田中亜生	
	レジデント	丹羽佳世子	
	部長・教授	田中康裕	
健康スポーツ歯科	部長・教授	佐々木穂高	健康スポーツ歯科
	講師	古谷義隆	
	医局長・講師	平野友基	
	助教	原田惇明	
	レジデント	頼岡廣正	
放射線科	部長・教授	鈴木玲也	放射線科
	講師	鈴木正樹	
	助教	鈴木航	
	レジデント	福田謙一	
	部長・教授	大多和由美	
臨床検査科	客員教授	加藤栄助	臨床検査科
	医局長・助教	添田萌	
	助教	國奥有希	
	レジデント	野末雅子	
	部長・教授	廣瀬詩季子	
内科	部長・教授	青島輝	内科
	講師	中島一憲	
	助教	阪上隆洋	
	レジデント	簡井新晋	
	部長・教授	都合司	
眼科	部長・教授	石田瞭	眼科
	准教授	大久保真衣	
	医局長・助教	加藤栄助	
	助教	後藤多津子	
	レジデント	岡野友宏	
眼科	客員教授	音成美佳	眼科
	医局長・講師	小高研人	
	助教	佐藤仁美	
	部長・教授	松元秀樹	
	講師	和田大岳	
眼科	部長・教授	松坂賢一	眼科
	客員教授	橋本卓充	
	准教授	國分克寿	
	助教	中島啓	
	部長・教授	山岸由幸	
眼科	部長・教授	仁科牧子	眼科
	准教授	ピッセン弘子	
	助教	太田友香	
	部長・教授	緑川桃佳	
	講師	緑川桃佳	

() 長期出張中



紙カルテから電子カルテシステムへ

医事課長 石井 哲

平素より多くの患者様をご紹介いただきましてありがとうございます。

当院は令和7年1月より紙カルテから電子カルテシステムに移行いたします。従前は患者様の紙カルテを予約日にお約束の診療科へ運び、担当医は診察終了後、カルテを記載し患者様はカルテを持って1階のカルテ返納口にカルテを戻していました。カルテが1階に戻されてから医事課職員がカルテの内容を確認し会計作業を、つまり一極集中の会計処理を行っていました。また、その時の状況により、担当医に診療内容を確認する場合もあり会計処理に時間を要し、診察終了後の待ち時間が長くなり、患者様にご迷惑をおかけしておりました。

電子カルテシステムへの移行により、診療終了後、担当医は電子カルテに診療内容を入力し、患者様は外来基本カードをカルテ返納口にお持ちいただくことになります。医事課職員は外来基本カードより電子カルテを呼び出し、担当医が入力した診療情報から会計情報を取り込むことにより会計処理が完了し、患者様の会計待ち時間は大幅に短縮いたします。

また、医事課としては電子カルテシステムによりカルテ管理が省略化されます。以前は患者様の来院前にカルテの保管場所に行きカルテを探す、診療科にカルテを搬送する。診察の後、事後処理終了後、再度保管場所にカルテ

を戻すという作業を行っていましたが、その作業がなくなります。カルテを保管するスペースも必要なくなり、保管スペースの軽減が図れます。

医療安全の面でも大きく向上いたします。紙カルテは歯科と医科、歯科の外来と入院に分かれていました。電子カルテシステムになったことにより歯科と医科、歯科の外来と入院の情報が共有され、ひとつの画面で患者様の医科での投薬状況、入院時の患者様の手術及び経過の確認がただちに行え、治療時に患者様の状態に即した診察が今まで以上に行えます。また、薬剤情報システムを導入し、患者様の安全をより考慮いたします。

最後に、システム入れ替えに向けて操作研修やリハーサルを行い、最大限の準備をしまいましたが移行当初は電子カルテの操作が不慣れなことから、診察時間や待ち時間が長くなることも予想されます。また、電子カルテシステムのトラブルを防ぐために態勢を整えておりますが、操作上やシステム上の問題が発生した時は、電子カルテシステム会社のスタッフが、診察台に立ち入ることもございます。しばらくの間、ご迷惑をおかけいたしますが、混乱のないよう努めますことを紹介患者様にお伝えいただけますと幸いです。

よろしくお願い申し上げます。

臨床検査科では、地域の先生方からの細胞診ならびに組織診のご依頼を承っております。詳しくは右記のQRコードをご参照ください。

採取やご依頼方法はこちら ▶



メールでのご相談はこちら ▶



東京歯科大学 水道橋病院

住 所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

電話番号 03-3262-3421 (代表)

ホームページ <https://www.tdc.ac.jp/sh/>



東京歯科大学水道橋病院

検索

編集後記

長い夏が終わり、短い秋を経て冬を迎えた今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので、本年も終わりを迎えようとしております。今年は国内外ともに不安定な情勢を伝えるニュースが多い中、スポーツではパリオリンピック・パラリンピックや大谷選手の大活躍など明るい話題もありました。来年はどのような年になるでしょうか。

東京歯科大学水道橋病院が来年からまず変わることは、本号でもご紹介したとおり電子カルテが導入されます。現在、全職員が操作研修を受けており、運用開始後にできるだけ患者様をお待たせしないように準備を進めております。職員一同、これまで以上に円滑な診療を心がけてまいりますので、来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(小鹿 恭太郎 記)